

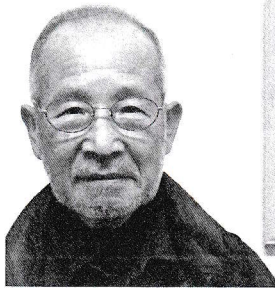
同 期 会 報 告

第15回青山68回作品展を振り返って

西原 徹 (68回) **60卒**

青山68回作品展は新潟市立美術館にて11月21日から25日の日程で開催されました。この作品展も回を重ねること15回目を迎えることになりました。数年前からピリオドを打とうかという声が出る一方で折角ここまで続けてきたのだから今回もやろうよという声の方が大きく開催することにになりました。

今回の目玉は各自作品の他に77才の自画像を添えて望もうという田中宣男君の発案で、その主旨は東京芸大の卒業記念作品展を見学した際これは芸大の伝統で自作品の他に自画像も出品



していたというところでこれは面白い試みだからそれを真似て各自画像に挑戦してみました。当初はどうしても描けないから勘弁してくれと言いつつも描いたがそこは田中君の厳命で描けなかつたら写真をパソコンで細工してでも何とか出せということで各自苦労して提出した人もいましたがいざオープンしてみると描けない人もそれなりに、中には孫に描かせた人もいました。それがそれも微笑ましく、概して自画像は好評だったようです。

本人が作品と並ぶとそのそっくりさに何故か笑い止まらない人も出る始末でした。そしていつも見に来て下さる喫茶「涼蔵」のご主人が「面白いから自分の店で自画像だけの展示をしませんか」ということでトントンと話が進んで12月12日から年末まで展示することになりました。

今後のことですが作品展のレベルも自画自賛だと言われればそれまでですが年々絵画、写真、陶芸、書、工芸、俳句と多岐に亘り見応えのある作品が出揃いました。そこで今回は如何するかというが話題になりました。が打ち上げ会の感触ではまたやるらしいですよ！その意欲が若さを保つ活力になるのでしょうか。それにしても悩ましいなあ。

喜寿を祝い銅茶屋に49人

塩沢 拓夫 (69回) **61卒**

喜寿を迎えたわが69回は、2018年10月22日(月)の昼、古町の老舗料亭鍋茶屋に、同期生の敦井榮一同窓会長を筆頭に49人が集まり、10人も芸妓連の踊りとお酌付きという超豪華版の最終回同期会を行った。もともと69回は仲が良く、ア  
ルコール解禁の卒業数年後からは毎年1月2日(3日の年もあった)の夜、旭町通の旅館(のち東堀通の割烹に変更)に集まっていた。もつぱらクチコミの案内だったが、参加者20人以下という年はなく、同期会の先駆けと言えた。